

# AI時代のサムライ業

「皆さんの仕事を2つ、土」の育成を始めた。に分けてみてください。経営心理士とは「自分機械や人工知能(AI)や従業員、顧客の心理やでもできる仕事。人間に感情を学び、事業の成功しかできない仕事。前者につなげる民間資格」とだけの場合、大至急、新藤田氏は説明する。心理事業を始めてください」学を独学し、独立後は約公認会計士と税理士の700件の経営コンサル資格を持つ藤田耕司氏は、ティンクを実施した経験半年前、日本公認会計士を生かして、民間資格ヒ協会東京会のセミナーでシネスを立ち上げた。講師を務め、200人超 取得コースには70万円程度の会計士にこう言い切った。藤田氏は6年前、大手監査法人のトーマツを辞小企業の経営者を想定しめ、自ら税理士事務所を開設した。加えて2015年10月には一般社団法人・日本経営心理士協会を立ち上げ、「経営心理」各サムライ業に属する

法務

## 税理士らコンサル志向に

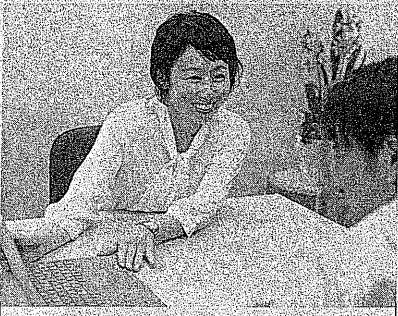
人々が「人間にしかできない仕事」としてコンサルを志向し、この新たな資格に注目した可能性が約400万といわれる中小企業の経営者の多くが高齢化や事業承継の問題に直面しており、「経営参謀」になれる人の需要は高いからだ。「残念ながら、税務書類の作成、税務代理、税務相談という税理士の主要業務は、すべてAIに取って代わられそうだ」

税理士の牧真之介氏は「危機感を強める。税理士を志向し、この新たな機会が多いサムライ業に注力した可能性が約400万といわれる中小企業の経営者の多くが高齢化や事業承継の問題に直面しており、」

「経営参謀」になれる人の需要は高いからだ。「残念ながら、税務書類の作成、税務代理、税務相談という税理士の主要業務は、すべてAIに取って代わられそうだ」



会計士セミナーでAIの脅威について語る藤田氏



「ホワイト企業」診断などに注力する社労士の近藤氏

## 「人だけができる仕事」選別

民間団体の日本次世代企業普及機構(大阪市)が認定する制度。近藤氏は同機構の「ホワイト企業診断士」で、認定を希望する企業を訪問し、コンサルティンクしている。「認定によって働きやすい会社だと強調し、求人にも活用しようとする企業が増えている」。すでに近藤氏は有料でコンサルをする会社「港国際ワークスタイル研究所」を起業した。仕事の7割がコンサルで、労務関連書類の作成といった社労士業務は3割にとどまる。企業法務に関わるサムライ業には、法律や財務の専門知識がある。その知識に加え、人の心に食い込む力を備えれば、AIとの共存は十分に可能なはずだ。

(編集委員 渋谷高弘)